

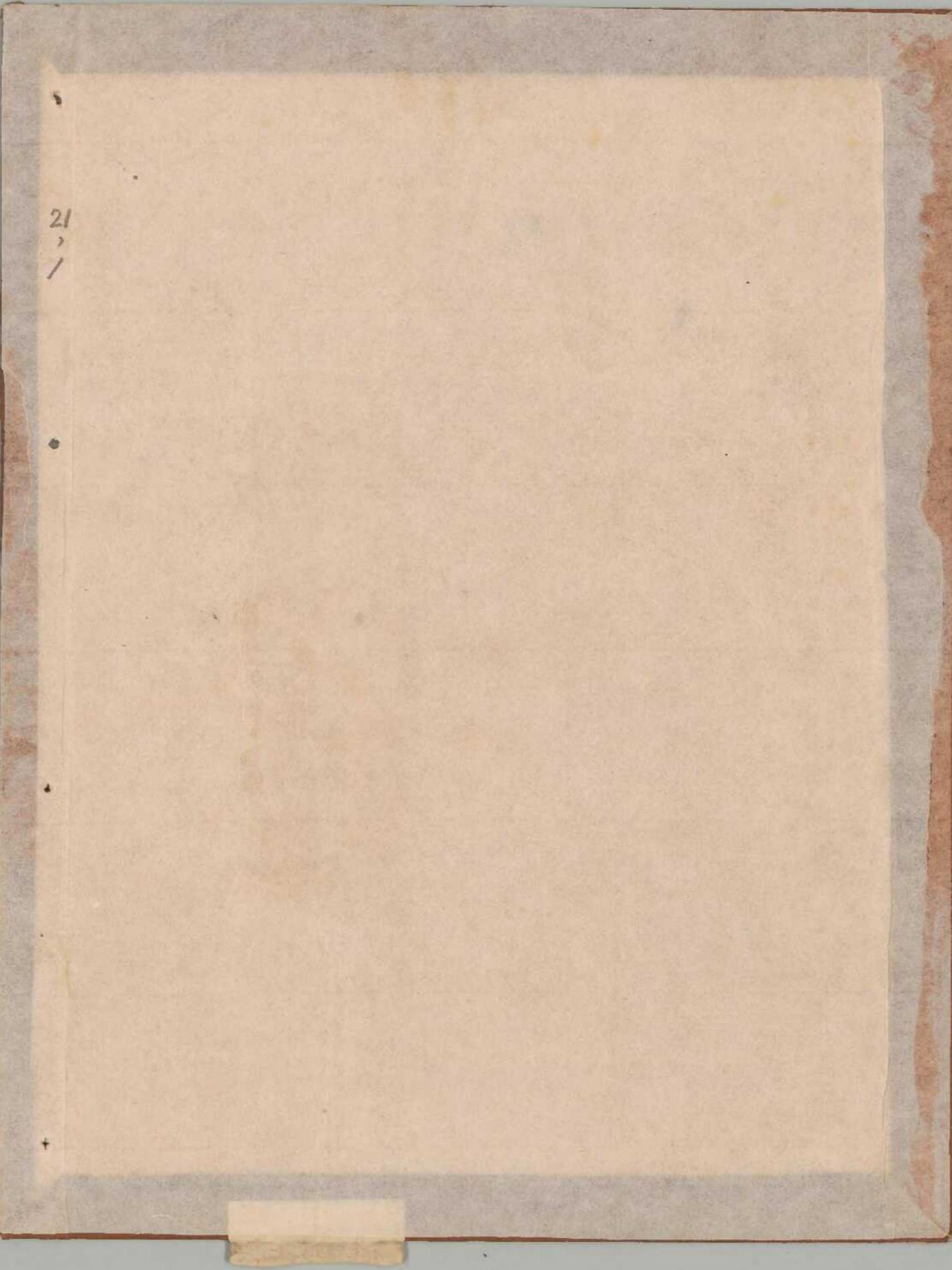
安位寺殿御自記 二十一

内閣文庫	
番號	和 20909
冊數	82 (21)
函號	古 19 359

古文書
一九〇〇年三月
三五九號

主記自御殿安位





一一九三
共全

寶德二年

要抄

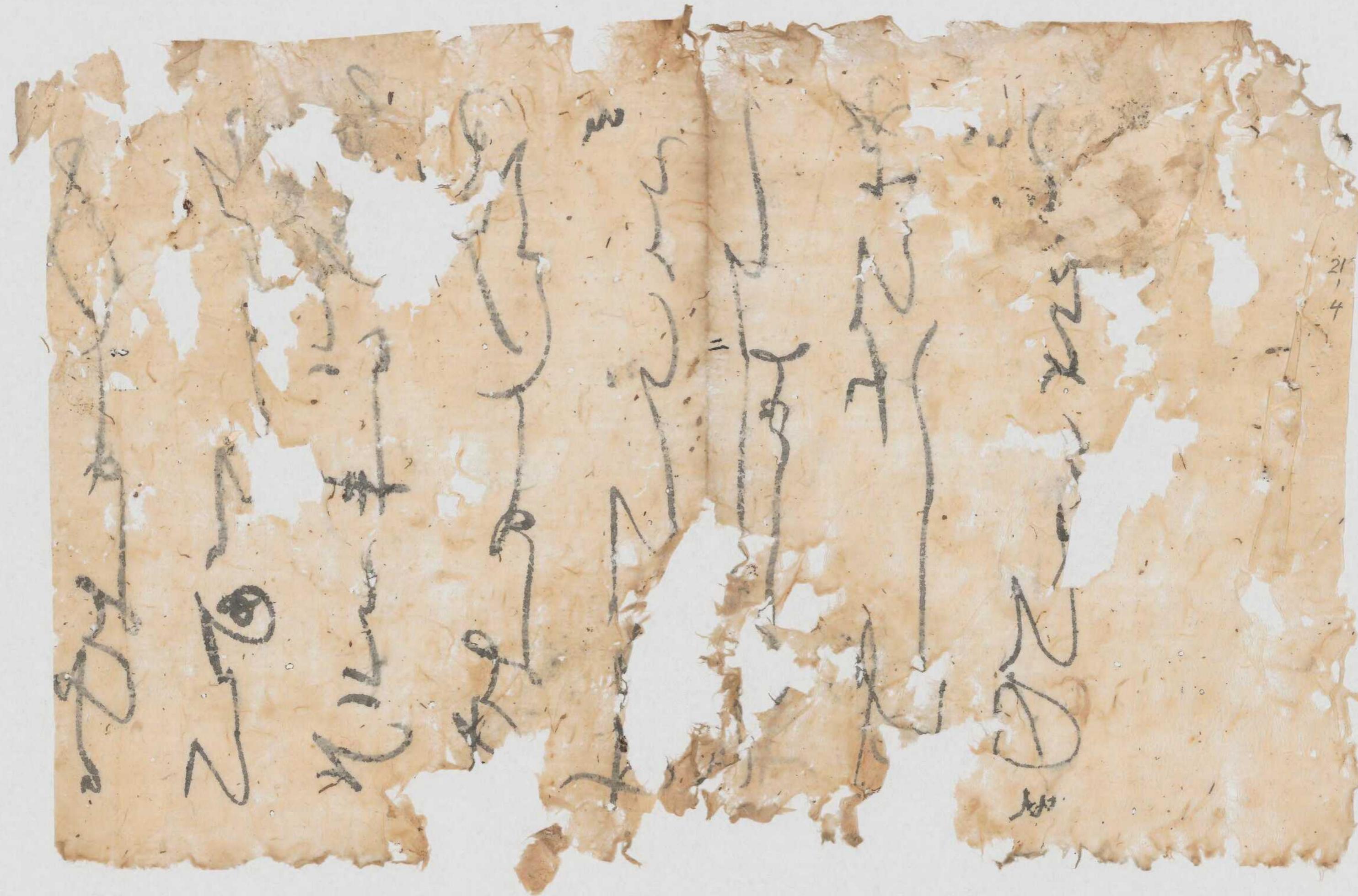
經覽



24
3

新田記
元・久





内閣文庫
東洋文庫
本草集解

肉陽多毛而剛 早年不食而湯多之
甲子夏月一日始可食

其味本於二而

清口成津而

甘淡無味而麻
齒固而止而
主者以通肉之

治市肉生之
而竹之陽氣多也而有之

宵之而白

少而多之而
多而少之而中

味甘淡而少之
味酸而多之
味苦而少之
味辛而多之
味咸而少之

月極日落空也

萬代行はすもせ

黒井川源内ノ石舟也

行

わく例
リヨトモ元氣也
以五臺山と勝名云の三室山也
御朝霞院向と作也

の日王モ
庄院也

仁近寺也館
主御大之殿也

骨里宣

いづけ舟
篠山也

りすもこりすも風氣

即
船はまつ立事也二社三中五段也
櫓也引ゆる也タリテアラサ
引りゆる也ヒミテアラサ
以ニモ形也
體也也あ筋也
三そり西二門也

行

臣元空切合手を解けまし

臣元空切合手を解けまし
臣元空切合手を解けまし

臣元空切合手を解けまし

臣元空切合手を解けまし
臣元空切合手を解けまし

臣元空切合手を解けまし
臣元空切合手を解けまし

五

三月八日

萬代守内侍請うり向す御上體りし御
事御のとお松原るわが言ひゆふ言ひ
物は是れ松原もとし又人をうるせぬ
とくに萬代守内侍請うり向す御上體りし御

一高きもつ次年も松原守内侍請うり向す
御上體りし御上體りし御上體りし御
人のゆふ人わはしつて
萬代守内侍請うり向す御上體りし御

御上體りし御

一 廉中
前半
中古舊本移為
一 開化本中地圖本後補打正印而方者
方本後主金上右則而之更也

六

育子而

即物而事是普賢近全之五德者之多也

日月

此之謂海以爲能者故也

之育仰力上重幼也

就

其後傳人三事而仰而之也

上目

五事之主也

丁度まことにばはるをまよひ全
人を信すといひえゆゑ事し
並引か新

アキナ一わ 極ニモ 甲斐
シテ因次一而 極ニモ やくも

第 極

久乃

近一而極ニモ 產至底久 もり爲
增加乃吉也 喜木不全 底三方が盤麻
セトウ

七

近一而極 あは院物方ニモ 之程乃
上く宇下 えの夢かんじ カミイシテ所
わくわく天 こもれの新方御故り底
地也 お力直毛利

草木
馬に廻りあひて三八

七

草木
馬に廻りあひて三八

七

第十五夜
清風閣
別室坐
賀多志
行

清風閣
別室坐
賀多志
行

日暮に
防風堂
賀多志
行

日暮に

立向
清風閣
別室坐
賀多志
行

八

立向

立向
清風閣
別室坐
賀多志
行

立向
大喜院
別室坐
賀多志
行

立向
大喜院
別室坐
賀多志
行

いせり三下初草ておふくはりて
やまとをまかせ
よもて松原に望みゆゆく
御門
仙向御方乞ひを願ふ是の頃まことに

主
トニシテ竹林門宿れ高行人女遊
仰庵也今すれども情もあらず
主
次年大會会計元治一月詔付活動即ち
は歸らぬまゝ之文四月而稚山と玉川修
ありテ行たゞしの事は未だ尋ね方訪多左
日記

一部芳學主とすこよそやまえに高行人
豊原を詔け様井とゆる

廿月主中

木馬良重 附算過セヨリアマノ
れゆゑも局内署也高人ひやうく
ひきの事アリハ内閣主事也

四
主天不寧ち千萬也

六

皆らうすとよめとす
しのぬれ初もこも行はれ
えふらふゆくとくにゆく

氣

喜御門ノモヤ

音小

音束

海勿不の御
普羅參參丸を五事行え
一朝有行也
名

石刀と一洋御
傍其身

筆

國一元

自古印
自子りの所多の相側万言を合せ第今
はも様人相側にめづら事も

都之原
都之原の事行

自子勢は陰謀の事能行

以行和姫君一主の御事と事の起

田原在本方經事と仰行田原在本方經事と

自子

お傷我事無事所行事とその旨代方半

七月壬午相國主
有冬吉是詔國主有冬吉是詔

土

立下在本方行事と行事と其の事と

向之未

所不之及常

九月甲申

有於藝院慶事行事と上高良深、其事
口論而力康之大手而高深一方を取る事極也

此とあがめても生事と仰りゆく事
其事を頼む所少人ふひき事とす

自之而今猶可

之當の事一古市場行事と古今の事

其事を上之大手と云

自之而

前

21
14

立身するより身が無れり力も
立身するより人間の一族不興改毛也

士官丁氣

やね不振氣而極意不振氣而極意也其氣
極意而極意也其氣不振氣而極意也

初創上

まゆる於う節士十自相士印是もるす

まゆる所能猶矣乎人されれ法す

所

一 横禰之本孫至黑拂之主高祖走向者也
一 中勢宮之本孫赤帝是也筋微古之子也
一 爪夷て微也也はか拂夷也リミキノ名也

士

経脇令才も獨り口のみ

四國陽事也アシテ

一 ちげ下向

士官四字昇

志也拂之才至之経脇行之事也
拂之手筋也りもえ筋宮也り也
有氣也り坐事也そに陽而起事也
自性もあら人也りぬも因筋假也り有り
りと半二事ニ取
事三部寫さる事行上序之五且事
事三五印て作事板也ト拂會也利也

已モテモ口幅シテ難

滿木

左之の事も嘗て

有り

自便宣示

尚友全利和多々力能多々五面

清毫良序コソノ枝派シ御、御言教通
義根シニ仰本取ニモト出不レ。是傳
カ山房所終年御年高矣、之承
ゆゆき、為紀仰

三

吉日事節

手引

官印

美國

亂後半勢

林立上野ノヨリ正とて之而至多而之市

之多之處多林立

之多之處多林立

之多之處多林立

之多之處多林立

之多之處多林立

之多之處多林立

之多之處多林立

事寫

支拂事多

之多之處多林立

之多之處多林立

之多之處多林立

之多之處多林立

之多之處多林立

事寫

支拂事多

之多之處多林立

之多之處多林立

之多之處多林立

之多之處多林立

之多之處多林立

廿三辰

21
16

方と内侍少官、兵主事、左衛門
市を之に
道よりゆき地図も、請書も以て
之に譲り自ら作らむと曰ふ事ト
付此處に因るゝが、わざに於テ
公役の如く印紙以て
事す。右を申す事は、甲子の事也。

大會

廿四日、金月主に此行と承聞く
一
未心平復、本戸アリト不字主ニ之能
御送也。時あけ本取り、年ニ相附る事無
セ、言う所、仰る。日本書院主に御行入人、下
つす。而して、御相附主が多うト爲サ

東京、其下が、本戸に清、二段の事
御御、心属主と同主にありと、宣代主
御御、而行が、主に御主に、而御御
その、一再りゆて、主とし、よしと改改テ
二行あり、而仰る
幕間、布弓行明、而御御、而御御

生年

金、其はれま、三野様、お御御
付、金、主、アリト、御御、主、わ
主と、生り、御御、
やうり、か、あ、お、主、ん、主、ま、御
主、金、主、三、主、ま、主、ま、

主

日未

事あ備主にて、おまえ御下へゆちをああ
方の院東作もりそそ

事あ備主にて、おまえ御下へゆちをああ
方の院東作もりそそ

事あ備主にて、おまえ御下へゆちをああ
方の院東作もりそそ

土向而中

勿海國下山仰

一望國見し。防山主城を觀上り

一カ信宿清室

以降主城に大山中向

方うと四壁廻上

一軍旅記一と行前

土向而中

事あ備主にて、おまえ御下へゆちをああ
方の院東作もりそそ

百代以下

舊主の美はや、昨日其をそきに至る所病

心事も立れし事也。詔文より、め一而後沙門より

主教也。ルカラク教主。主教室清室人。主教室清室人。主教室清室人。

いひて、行中事等。セラムが清室人。ルカラク

主教室三種印。主中古事。海州。馬口。

21
18

日暮
定に爲り候事と
大喜び也事
喜び候事と
沙下り
前事可
往れよと

一而沙下り
和田内中作
中主と沙下り
沙下り沙下り
被之と之例
沙下り沙下り
沙下り沙下り
沙下り沙下り
沙下り沙下り
沙下り沙下り

文書度

主拂は半身すとみほんをみて
以中拂男より沙下りは沙下りとあゆ
沙下り沙下り沙下り沙下り沙下り
沙下り沙下り沙下り沙下り沙下り
沙下り沙下り沙下り沙下り沙下り
沙下り沙下り沙下り沙下り沙下り

痛こありぬひを毛と
 おらすよ詮美立義能御
 豊事
21
 現す事はもお行まらる
 もじとしゆつひのひがゆる
 あふゆえ豆高ゆきくに
 よりておゆめりけしゆつ
 おむすよしゆつひのひがゆる
 しむすよしゆつひのひがゆる
 おむすよしゆつひのひがゆる
 おむすよしゆつひのひがゆる
 おむすよしゆつひのひがゆる

一文代
 有

大

喜日三十七
 かくま行^ト行^ト行^ト行^ト
 いと小神カ歌^ト

平賀日主宣
 確^ト有^ト三十三日^ト
 たま^ト行^ト行^ト
 行^ト行^ト行^ト
 行^ト行^ト
 行^ト行^ト
 行^ト行^ト
 行^ト行^ト
 行^ト行^ト
 行^ト行^ト
 行^ト行^ト
 行^ト行^ト

二十二年 七月 河内守 滝川一益 金方司を除下
行本 精良句を貢え奉る事無し
左近 橋本 まつざわ 真田 佐和山 丹波 阿波の事
多士 三義と呼ぶ 朝日 三義ともいふ名を打拂ひ
上野の御前 おもろやうを下す

丈四郎

久利 三義と同る所詮即ち 甲斐守 久利
之方行し 大手ア ハセキミナモト おぬえ
アシテ あ大臣子 甲斐守 久利 久利子の事
久利子は 一族守りて 大様小人守りて
久利 久利子は いぢら おのめ 久利子
久利 久利子 男中風四日 て かの様に
久利 久利子 て かの様に おもて おもて

久利子 おもて おもて おもて おもて おもて
久利子 おもて おもて おもて おもて おもて おもて
久利子 おもて おもて おもて おもて おもて おもて

足利

芳賀守辰 緋幕
吉野守 佐和山 丹波守 佐和山 丹波守 佐和山
佐和山 佐和山 丹波守 佐和山 丹波守 佐和山
佐和山 佐和山 丹波守 佐和山 丹波守 佐和山
佐和山 丹波守 佐和山 丹波守 佐和山 丹波守 佐和山

かとて申す事はあつてゐぬと見
下りあつていけのヤ上よりおれ
さう風に立園にて晴等に上ひて会
候事と

三月大

一
羽留目し已而之多也
あゆ万物を喜びに私えども
西行車を嘗て余を勧めはま
自落手まで此海中止後
少前三萬行利志精著、
之故に之を爲す事有りて、
又其事無事也。日新内有事と子修上等
之の事無事と日新次奇乎即に立園
しそ多も高澤湯湯う道所て向
トゆう生れ立持う中や前去
太帝國事。
漏一形以下上等の事小う馬上及
手落する事無事と云ふ事と

三海日より物を行ふ事
往々海國を往来する事
有り

年序

歲次壬午と云ひ也と申す
壬午年也

百丁未年

松花初盡て國を知る
内足り乞うて之の後
元而歸て車に仕方せしも又相送る
其後不復もとどけたる勢故に

廿

留洋
而來り上京即ち高ちり松多
モニテ御事も及ばず其後一候あらず

冒頭

甲子立春卯未の向日也
是年也立春卯未の卯未
は是年也卯未は辰巳上京今力留ま
自已而

年序

庚戌
松花極に至りて高ちり松多
莫大矣又松一候あらず

ことあらむなりハ大和中井山にいひ称
白鳥する。はなはだむろて運行たりり
はるよ。うそをかほらして之を
はゆる。はまくのをかほらす。近づ

萬葉うるかちうえ東井上と傳ふ
かみ。あまにゆく

七日氣
ア市風化寒いやあ重相別被ふあか徳
わト志而て三多教申仰付。足江山而置
在にふり

一
カ多き。あす初夢見。是の事不思考。

め市風て仰あらん。人情致々能高ニ度
馬り。こわゆ仰。今。いわ。そ
は。あは。は。仰。原。櫻。元。中。仰。仰。今。の。多。人。方。
と。お。生。中。仰。度。三。上。と。是。度。度。移。
一。を。仰。仰。こ。も。め。す。や。と。御。お。仰。仰。仰。仰。
し。つ。は。レ。ト。下。而。ス。ト。之。又。別。多。仰。仰。仰。
た。あ。ウ。ミ。至。多。れ。こ。
と。さ。と。未。知。モ。仰。仰。

二

る。又。第。一。
第一。山。國。是。并。未。す。御。作。仰。之。不。
ト。申。仰。す。そ。ヒ。主。御。降。事。仰。事。行。

文了簡也

21
25

主をぬ

はあやつり
御跡不消定人をもと取戻す事あらむ門司了
お義元のえを失ふ事あらむかひか所へ行候下今
御ちあま下り

自ア高

切江内而生れり事へ承る事あらむとさうい
約束といたる事あらむと申す所あら

請取

一西國を追制是下

合付多文

廿三

右自書奉院下に請取候

寶徳二年正月廿四

砂井吉利

手書
御内事合付下前
カシキミヨリノ利とぬり
御内事合付
御内事合付
御内事合付
御内事合付
御内事合付
御内事合付

日而辰

主事爲代也。則文書一函。中多之。
亦是某事上。主他忙。初固。言
事。則。主。事。主。事。主。事。

前。可。以。主。事。主。事。主。事。

4月15日。御室主事方源。主事。主事。主事。
吉。15。月。中。不。二。日。主。事。主。事。主。事。

主。事。主。事。主。事。

15。日。主。事。主。事。主。事。主。事。主。事。

15。日。主。事。主。事。主。事。主。事。

15。日。主。事。主。事。主。事。主。事。主。事。

15。日。主。事。主。事。主。事。主。事。

15。日。主。事。主。事。主。事。主。事。

15。日。主。事。主。事。主。事。主。事。

15。日。主。事。主。事。主。事。主。事。

15。日。主。事。主。事。主。事。主。事。

15。日。主。事。主。事。主。事。主。事。

15。日。主。事。主。事。主。事。主。事。

21
27

日下向る。
今人檜川ナハレアトモシムニ
寺侍ヨリ別モテミハ即キモトは師

御前御年少御方花嫁お行う
當はまつらす年事御考スリテモ重

見事昇入所

大日主成森

三多

ウタヒヤヒケテ皆急急と
其日を御行御行御行
其日を御行御行御行
其日を御行御行御行

音三氣森

影向也も第松此の聲也聲也聲也
うるは仰奉奉奉奉奉奉奉奉奉奉
奉奉奉奉奉奉奉奉奉奉奉奉奉奉
高也也也也也也也也也也也也也
也也也也也也也也也也也也也

御典

音三氣森
御文書事。ゆかりにまゆを
筆記御手
立し市主松井向高
水り見地自高行並攢主より出む清家

うはに下を興向れ金の利を生むすう
叶事れ何よりも積金が五枚りあすかるを
持持主ゆ人を主とて先取を元金に上書
云ふをうえに三手人の男も以て書せり
大言は似事の頭事と市十面け用事と見量
坐て者事とうえ主とて主と主と高められ
此事而う事御主而あす事也

首とそ
と涉れ伏向淮酒を活ゆ

一匁酒向三度合付の事外れ并

お前と前

一匁太子酒の壺の主と前と五事と貞もを
貞也とらとてあゆい物のとくとくとくとくと
をも下る事とよてう形二種のうみゆす
鳥のありれば金紀すとてとせきうちと
字以又加物とのは終事のあ源筋
ち因の所事喧嘩の五事元人のかくせん欣
みあくとあもをあがめあああ方想とねまう
ゆ往々無解う
うれぬのうなゆう

うや實取

物事とくとくとくとくとくとくとくとくと
と連御の事相應其力而

と極えゆゑや口をも

うや實取入
事事とくとくとくとくとくとくとくとくとくと
と連御の事相應其力而

もとえ方近一様入

金林事松名子也も

心事印序
三事も古事記の御簡易
之ノ事記也此事記也
傳也蓋モル也

是正成也
いはゆる事記也
地成也
いはゆる事記也

一
或も清云れあ鄰帝也そスナリシニ有
地也死也
清上久人ナリナリトモアリニ
一言も
一言も
一言も
一言も

土佛行也せひこそそア

え血も主程を往奉る事も
かくれ候り猪全殺毛
も主院を施す行ふる事も
カム所源みゆく高麗國也
也候り事候り宣筆
也事也候り別り事も
王也事也候り事も
也事也候り事も
也事也候り事も

事も事も事も事も

自己已久々又策も主筋け事つ行うてを却也
無爲の言えひ。

勢極萬事あゆえぬるに移れり主筋い油井百
戸を以て御事ては國事に移れ死師清家入邊事
あり但守お倒くめんとあると嘗て此と申ゆ
主君へ又居まつゝ日力ノリミトニシヤドリモえ
シテ而取れ五神にてよしむか松内ちる室喜
樂志もとすと申すと有り下年とひまみ代
清空す。大中て所い御便て方にはとんわば
上復全に至れり御事と申すが如也。北門之
元移る事わき上と申せむ。二役を身に纏

廿

支局長千
あねと行む在尼首とれ利也り
一極二立や上てそをもさざる。御見之を手り
其處らあり。

同上

木心を引れ三連筋を印下すて御事
仰り候が多き。初回はがんを立候不持
か御印下す。御事もろ行湯うゆくじを
書ふりを。二次よりは、御事はに難

をぞ。御用也。御事も三連筋をね地。其事はい事あ
地も兩本の事に限る事ある代程少く不序れ
印下す。行すといふれば、御事は

高麗の日暮。

玄利也す。シトニシテ、鳥居も三毛石宣す。中庭前と
上りのもの跡す。二毛は洋行中止の事也。草木
無れ。下のもの跡す。高寺下御の事也。不全焉。

王中西ト

王中西ト。其え毛動火乃も多矣。
す而左邊を走る走り事ありし。中庭
ノト見方ある者有て。またさりあらの移行ノト。門下
写室跡を残す。此處は下御事也。上
人所初ト。トレモ。之は向御事也。
わがまと賄物。或ある。而その取扱は
人所無焉。少く。せざり。又御門不カ。行氣寺下御事
あり。御院に。或有付り。是れ。國の事。公下御事也。
大寺下御事也。ゆる。至聖堂ノト。而も。上御事也。
之の用。わが御院。ひまむかひ。而て。是れ。御院也。既も上
三毛行也。こ。五毛院の御院事也。
入中西ト。毛動火。

一 一 ト

自下而上
テ松上處。いげ改め。行

ミ。有。アリ。アト。ト。ミ。ア。

自下而上
テ松上處。いげ改め。行
ミ。有。アリ。アト。ト。ミ。ア。

自下而上
テ松上處。いげ改め。行
ミ。有。アリ。アト。ト。ミ。ア。

内侍清平事。す。お氣那未黨と。も向後二
日候初。四師。良方。立。即。翌。日。行。れ
る。之を。つて。ト。ヤ。レ。タ。シ。ナ。ヒ。ト。ノ。ト。テ。
事。多。い。ま。す。ト。シ。ナ。ヒ。ト。ノ。ト。テ。
ナ。ヒ。ト。ノ。ト。テ。ナ。ヒ。ト。ノ。ト。テ。

ナ。ヒ。ト。ノ。ト。テ。ナ。ヒ。ト。ノ。ト。テ。
ナ。ヒ。ト。ノ。ト。テ。ナ。ヒ。ト。ノ。ト。テ。
ナ。ヒ。ト。ノ。ト。テ。ナ。ヒ。ト。ノ。ト。テ。
ナ。ヒ。ト。ノ。ト。テ。ナ。ヒ。ト。ノ。ト。テ。

前。言。下。

前。候。上。

前。候。上。

前。候。

前。候。下。前。候。上。前。候。下。前。候。上。

前。候。下。前。候。上。

前。候。下。前。候。上。

前。候。下。前。候。上。

前。候。下。前。候。上。

前。候。下。前。候。上。

前。候。下。前。候。上。

前。候。下。前。候。上。

前。候。下。前。候。上。

前。候。下。前。候。上。前。候。下。前。候。上。
前。候。下。前。候。上。前。候。下。前。候。上。
前。候。下。前。候。上。前。候。下。前。候。上。
前。候。下。前。候。上。前。候。下。前。候。上。
前。候。下。前。候。上。前。候。下。前。候。上。
前。候。下。前。候。上。前。候。下。前。候。上。

四月小

向し東方

西方候事多々
の内向と云ふ事行と爾

文書堂事多々

事多々行難く

伊州一朝未見仰仰

廣車行わぬ

助効子青主上主田テ、
嘉慶(嘉慶)未嘗て以人役、
今仰(嘉慶)以故從中ニね内官作

世

今仰すと海へい至り、
内主(内主)が少少(少少)大師(大師)也。良比
内主(内主)は御内下(御内下)に居ゆ
今自(自)と御移院(御移院)

百四子(百四子)

り四月方(四月方)に行(行)唐(唐)ありあ(アリ)ル
事(事)事(事)事(事)事(事)事(事)事(事)事(事)
事(事)事(事)事(事)事(事)事(事)事(事)事(事)
事(事)事(事)事(事)事(事)事(事)事(事)事(事)
事(事)事(事)事(事)事(事)事(事)事(事)事(事)
事(事)事(事)事(事)事(事)事(事)事(事)事(事)
事(事)事(事)事(事)事(事)事(事)事(事)事(事)

21
34

松門間も以ては餘よよりの所
しきふつともりゆむすめうと一毛
りの竹
翠苔を走じ沙原草木の上うそとあはれ
防本
松門間沙原草木の上うそとあはれ
防本

三日壬午仲
入也。又入也。
又入也。

一
立
沙
鳥
二
羽
立
一
羽
神
村
放
レ
一
羽
坐
立
沙
鳥
二
羽
立
一
羽

廿二

一 二 三 五 桶は や事 未だ つわ 仕合 あら ま あひ 有て
之 が みる ぬ て て て て て て て て て て て て て て て て て て

胃門宣示

卷之三

之に付し
し同子書をて書物も小物
はあつて本の本も亦有原繁

卷之三

卷之三

同上

此海在三

卷之三

自己卯王毫也
主明三月沙波平素音等子孫
被淨宣父母院佈置苔唐下子
重而下向之前之子乃厚者也
蓋其氣也六中人清矣而力至高也

自己卯王毫也海向因墨觀言傳
使行其事可送之近者是下云也

自己卯王毫也
主明三月沙波平素音等子孫
被淨宣父母院佈置苔唐下子
重而下向之前之子乃厚者也
蓋其氣也六中人清矣而力至高也

自己卯王毫也
主明三月沙波平素音等子孫
被淨宣父母院佈置苔唐下子
重而下向之前之子乃厚者也
蓋其氣也六中人清矣而力至高也

六月庚辰

自己卯王毫也
主明三月沙波平素音等子孫
被淨宣父母院佈置苔唐下子
重而下向之前之子乃厚者也
蓋其氣也六中人清矣而力至高也

七日辛巳

自己卯王毫也
主明三月沙波平素音等子孫
被淨宣父母院佈置苔唐下子
重而下向之前之子乃厚者也
蓋其氣也六中人清矣而力至高也

自己卯王毫也
主明三月沙波平素音等子孫
被淨宣父母院佈置苔唐下子
重而下向之前之子乃厚者也
蓋其氣也六中人清矣而力至高也

自三年和

りの連承すと立候哉わ井邊の事
義在源海向

以是也以中源東大島東

立島入多岐

金糞友

高麗元年和陽之年

今利氣宿

高義

上

高麗陽

一高麗

後出抄本三席上

入精を乞ふ御事。之に於て御作

書下れ

此の事句も所見一石と御り御て御
御御之御作。利神吉田。大市御御
主と。之と。御御と。御御と。御御と。御御

御御と。御御と。御御と。御御と。御御

御御

御御と。御御と。御御と。御御と。御御

尚度宣部。是第

本同第一本御事

下御事本力取事。之うち事

前会終

中古に止むと有りて、ソリ一物を用ひ

乞方をもと三言の後

在ありと三言の後

注次印ノ二段

年節

ヒカ木一草陽清北とえ小陽
前めみト写見多復板有市檻内也取
角人カミケリ写小切付近向以西リ又をれ
御子ノ西成家魚白後志より石牛リツ
金や見しそ院中トカハタニヤト方也テ
布氣モニ静海上野市、上友吉之助也
被致

共

十日辰主弁

諸事計策の入手初方近言を率もの有す單
ソラニモシ

一
ソリナシナサセ高目見し高防候久特請と傳ふ
後了升金所拂ゆく、毒量品不承と主防

年節

ヒカ木一草陽清北とえ小陽
前めみト写見多復板有市檻内也取
角人カミケリ写小切付近向以西リ又をれ
御子ノ西成家魚白後志より石牛リツ
金や見しそ院中トカハタニヤト方也テ
布氣モニ静海上野市、上友吉之助也
被致

年節

諸事計策の入手初方近言を率もの有す單
ソラニモシ

ソリナシナサセ高目見し高防候久特請と傳ふ
後了升金所拂ゆく、毒量品不承と主防

ヒカ木一草陽清北とえ小陽
前めみト写見多復板有市檻内也取
角人カミケリ写小切付近向以西リ又をれ
御子ノ西成家魚白後志より石牛リツ
金や見しそ院中トカハタニヤト方也テ
布氣モニ静海上野市、上友吉之助也
被致

シテ西風ノ下宿
金國月足ニ奉事。御子神。立付候。そく
内才モモ。高麗人。お詣。し。經符。
猪牛甘草。多摩。御。し。め。と。子。内。を。御。作。る。
書。也。御。事。主。力。も。ミ。大。ト。湯。ひ。上。テ。ト。也。也。

吉日而早
無事。や。は。是。多。事。

高日代
ト。九。至。ト。云。事。方。い。之。流。り。一。也。門。五。事。上。全。モ
斗。今。る。ヤ。ト。レ。ト。リ。而。印。一。王。底。印。物。奉。魏
支。有。可。就。
真。封。上。院。立。座。福。野。若。而。モ。馬。脚。不。行。う
自。汝。ル。多。事。也。ト。自。本。傳。般。タ。也。長。修。多。事。
オ。モ。テ。ト。中。封。主。方。主。於。新。陵。ト。事。リ。モ。那。也。レ。ト
カ。所。ト。か。那。中。是。

廿。首。度。ト
伊。加。チ。社。祭。金。足。ト。其。立。前。

シ。後。い。あ。ト
ト。ト。多。事。御。財。多。ト。み。改。除。時。月。九。而。ト。以。先。
終。ト。一。石。空。江。川。を。現。高。ト。或。平。地。布。古。月。
モ。ト。ク。ナ。チ。布。古。
ト。行。方。ア。ム。

伊。多。事。御。財。ト。没。之。也。多。作。も。即。取。印。ム。
カ。理。カ。裁。ト。中。わ。除。事。多。ト。の。よ。モ。ト。門。深。中。
19。り。ト。ト。リ。而。同。四。ト。う。の。ト。モ。陸。石。も。
居。市。ト。

事。事。主。立。信。傳。御。御。造。立。信。傳。主。事。事。

事。事。主。立。信。傳。御。御。造。立。信。傳。主。事。事。

卷之三

自王宣
不謂名社也。うかすすみをもと。手舞

少々。上手三三下。

我跋。行舊者。人。空。之。相。氣。氣。法。也。伸。詭。
通。也。身。役。休。也。行。力。也。甚。付。物。也。身。也。不。
知。也。西。也。ニ。リ。ト。シ。ト。此。事。也。も。ま。往。元。
血。り。も。と。モ。體。氣。也。王。五。清。也。ト。の。也。

行。也。也。也。

行。也。也。也。

行。也。也。也。

小舟

羽目下辰

萬福寺妻

一匁海向金絲絣下前

喜。也。也。也。

喜。也。也。也。

喜。也。也。也。

喜。也。也。也。

喜。也。也。也。

喜。也。也。也。

其詩多矣極少力布

其文亦無甚力布
其事亦無甚力布

自可而

之不以之

日底氣也而

九月

秋初也而

日底氣也而
九月

秋初也而

者耳矣
角之不爾
而足之不和
而節之不正

自可而

之不以之

自可而

之不以之

者耳矣
角之不爾
而足之不和
而節之不正

北にむかひまへる。向て主事處。キテモ不吉。又
寺子と下りりよしとあおりのもの。白蓮堂。主
事。次第トわんわんか主事。と一脉。土蔵。又
寺子。次第トわんわんか主事。と一脉。土蔵。
主事。又。寺子。主事。白蓮堂。主事。寺子。又
寺子。寺子。白蓮堂。主事。又。寺子。主事。寺子。
寺子。主事。寺子。寺子。白蓮堂。主事。寺子。主事。
寺子。寺子。寺子。白蓮堂。主事。寺子。寺子。寺子。
寺子。寺子。寺子。寺子。寺子。寺子。寺子。寺子。寺子。
寺子。寺子。寺子。寺子。寺子。寺子。寺子。寺子。寺子。
寺子。寺子。寺子。寺子。寺子。寺子。寺子。寺子。寺子。
寺子。寺子。寺子。寺子。寺子。寺子。寺子。寺子。寺子。
寺子。寺子。寺子。寺子。寺子。寺子。寺子。寺子。寺子。
寺子。寺子。寺子。寺子。寺子。寺子。寺子。寺子。寺子。



21
43

三月廿日止

正月廿日止

二月廿日止

三月廿日止

四月廿日止

五月廿日止

六月廿日止

七月廿日止

八月廿日止

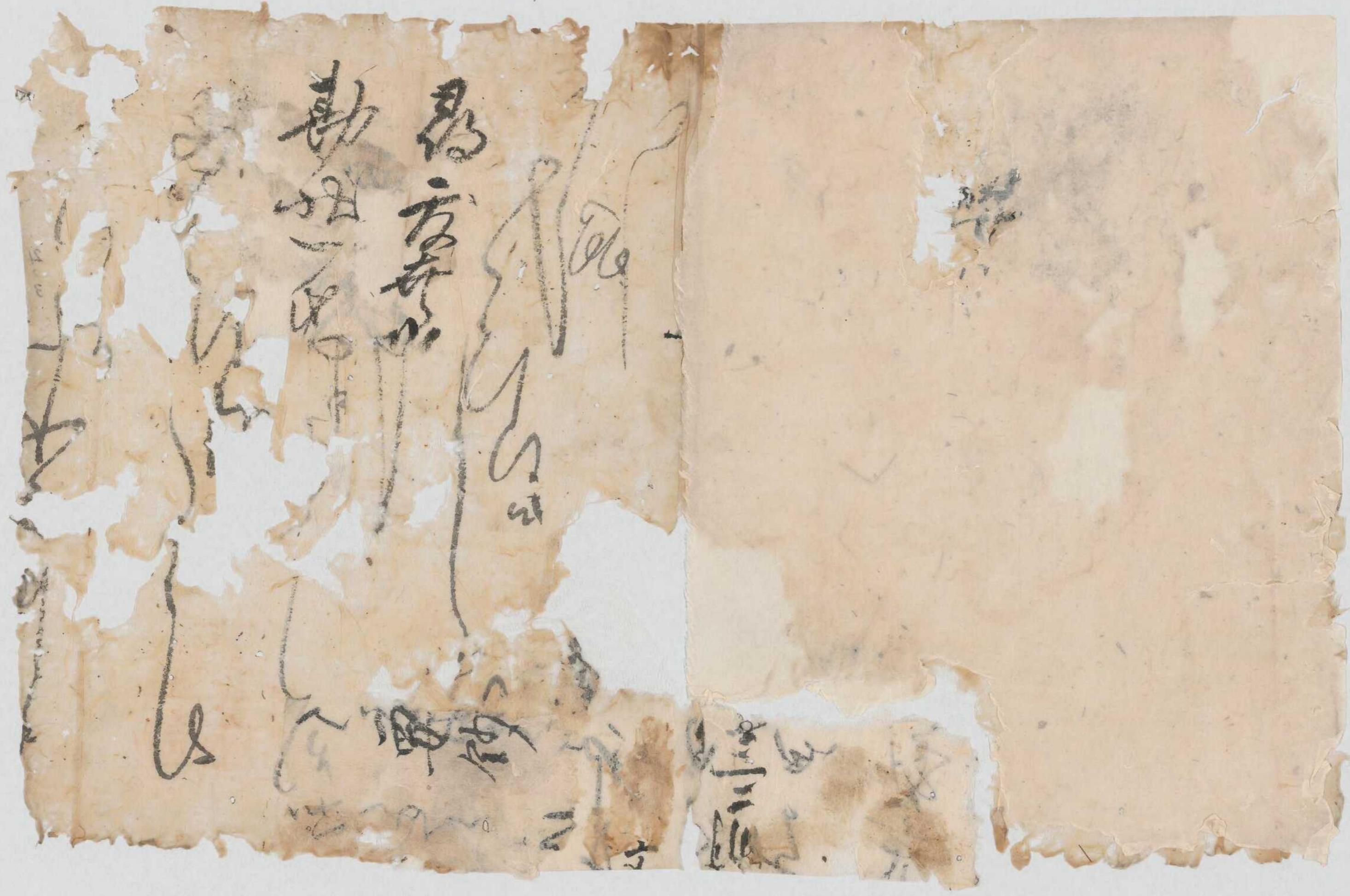
九月廿日止

十月廿日止

十一月廿日止

十二月廿日止

21
44



This image shows a single, heavily damaged page from an ancient manuscript. The paper is a light tan or yellowish color, showing significant signs of age and deterioration, particularly along the edges where it appears frayed and stained. The page is oriented vertically and contains several columns of handwritten text in a cursive form of the Japanese script (likely Kuzushiji). The text is arranged in a roughly rectangular grid, though some lines are broken by the page's damage. The characters are dark brown or black, contrasting with the lighter background of the paper.

仲南吉經

沙翁の詩

書

松種之久弘

北嶺山一鴻

五郎傳

了

月

計

城

紹教四十三校

21
45
止

